

令和5年度卒業論文

現代日本語における字体「竜」と「龍」の使用実態について

広島大学 文学部人文学科
日本・中国文学語学コース 日本文学語学分野
B190941 木村綾瀬

目次

1. はじめに
2. 先行研究
3. 調査方法
4. 調査結果
 - 4.1. 2000 年以降の各メディアにおける使用実態
 - 4.2. 2000 年以降の固有名詞の位相ごとの使用実態
 - 4.3. 竜の東西と使い分け
 - 4.4. 竜の善悪と使い分け
 - 4.5. 竜の实在・非实在と使い分け
5. おわりに
6. 参考文献

1. はじめに

想像上の生物のひとつである「リュウ(たつ)」を表す漢字には「竜」と「龍」の2字が存在する。この2字は新字体と旧字体、俗字と正字という関係にあるが、字体のほかにはその音も意味も同じである。

多くの漢字の場合、旧字体は時代とともにその使用頻度を減らしており⁽¹⁾、読み書きの点において平易な新字体が広まっているのは自然な流れだといえるだろう。しかしながら、笹原(1999)が指摘するように、「竜」が定着していつている一方で、「龍」が根強く使われているという実態がある。笹原は「龍」が用いられる要因について、次のように考察した。

・人間による字の使用行動という面から見たときの要因

- 1 文献(古代～現代)の忠実な引用・転載。
- 2 固有名詞の忠実な表記。
- 3 普通名詞の、好み⁽²⁾やなじみ⁽³⁾などに基づく習慣的、懐古的、趣味的な表記。

・人間の意識の面から見たときの要因

- 1 「龍」「竜」の一方が「常用漢字表」における旧字体、他方が新字体だという新旧の関係、つまり同じ字という関係にあると意識せずに、別々の字だと意識する者がいること。
- 2 文部省が「常用漢字表」で「龍」ではなく「竜」に決めているという事実の認識とそれに伴う規範意識が一般に薄く、かつ「なじみ」や「好み」があること。
- 3 「龍」が以前からの経緯で、各種のメディアにおいて有名人の固有名詞などで残存しているという習慣が接触頻度につながり、ある程度のなじみと強い好みを生んでいる。これが義務教育で習った「竜」へのなじみをも、次第に覆いかぶしていくと考えられる。
- 4 画数が多いために、「リュウ」のイメージにあった形、勇ましい形、昔風の形、伝統的な形、重厚な形は「龍」だという意識から、義務教育で習った「竜」よりも強い好みを生んでいる。実際に、「リュウ」ではなく「恐リュウ」や「タツノオトシゴ」の場合は「龍」ではなく「竜」だという者もいる。

本稿では、この笹原の論文が書かれた後、2000年代以降の「竜」と「龍」の使用の実態を調査し、人々があえて旧字体「龍」を使用する意図を改めて探っていく。なお、以下の本文で架空の生物の「リュウ」を指す場合は、煩雑を避けるため引用を除き単に竜と表記する。

2. 先行研究・事前調査

前述したように、1999年までの「竜」と「龍」の使用についてのデータは笹原の論文に詳しい。

漢和辞典における両字体についての記述を確認したが、諸橋轍次『大漢和辞典』においては「龍」の解説があるのみで「竜」には触れられていなかった。そのほか複数の漢和辞典も「竜」は「龍」の省略形の俗字であるという共通した内容の記述があるのみで、音も読みも同じである「竜」と「龍」にはもともと使用意識に基づく使い分けはなされていなかったということを再確認できた。

また、漢字の使い分けについて述べた書籍の文章をいくつか次に掲げる。

それほどまでの唯一無二性を身にまとった漢字は、もはや、「文字」ではなくなっているのではないかとさえ、ぼくは思う。「文字」というものが、本来は単なる意味伝達の手段なののだとしても、ときには漢字は、それ以上の、きわめて象徴的な役割を果たすことがあるのである。(p.144)

常用漢字ではなく当用漢字の時代の出来事だが、円満字二郎『昭和を騒がせた漢字たち—当用漢字の事件簿』の表外字を用いることについての言及である。漢字が意味や音を表すだけでなく、他に替えの利かない唯一無二の象徴になりうるということを考察している。これは、常用漢字表に採用されている新字体ではなく、旧字体をあえて用いることにも通じることだと考えられる。

「竜」については、「人名用漢字表」では「龍」が用いられており、「補正資料」では「竜」が用いられている。「新漢字表試案」では「竜」を採用したが、「龍」に対する愛着は仲々強いものがあり、殊に「襲」の字の部分として、「当用漢字表」の中にも生きているので、「龍」を採用したいという意見も出ている。(略)最後まで意見が分かれた「竜」か「龍」かについても、補正資料で「竜」と決めていたことが最終的な結論にも影響を与えた。(p.33-34)

氏原(2010)の論文では常用漢字表の改訂の際の、字体に関する議論の様子を垣間見ることが出来る。「龍」に対する愛着という言葉が使われており、ある字体への好みというものが確かに人の中に根付くものであることを認識できる。

加えて、「竜」と「龍」の両字体に対してのイメージを述べた、SNS関連サイトや等もここで紹介する。2000年代以降のデータを調べるうえで、パソコンやスマートフォンで文字を打って表現する際の使用意識に目を向けることには意義があると考えられる。「ピクシブ百科事典」はイラスト・漫画・小説を中心としたSNS「pixiv」の関連サイトであり、創作・サブ

カルチャーに関する用語が主に解説されていることが特徴として挙げられる。ファンタジー作品等に登場することから竜についての解説ページも存在し、その中では字体の使い分けについても言及されている。動画投稿・共有サービス「ニコニコ動画」の関連サイトである「ニコニコ大百科」も同様にサブカルチャーについての解説が充実しているが、「ピクシブ百科事典」とは異なり字体への言及は少なく、文字で表現することが求められる小説という形では作品が投稿されないことが影響しているのではないかと考える。

・「ピクシブ百科事典」

○「竜」のページより抜粋

pixiv 上では

アジアで信じられる伝説の霊獣の名称 → 龍（東洋竜）

欧米などの西洋方面で伝わる伝説の幻獣の一種 → ドラゴン(西洋竜)

という意味で使う人もいる。

西洋竜、東洋竜のタグはどちらも良く使われている。

また、小説等の作品では西洋竜のことをドラゴン、東洋竜のことを龍という風に表現する場合がある。

ただし、このような使い分けはあくまで作家の個人的な拘りであり、ルールとして決められている訳では無い。西洋竜に龍の字を、東洋竜に竜の字を使う事は決して間違いではない。

前者の例としてクロノ・クロス、後者の例として創竜伝がある。

○「龍」のページより抜粋

現在では「竜」を常用漢字として使い、「龍」は表外だが人名に使うことができる。表記上はどちらでも構わないが、その字面からサブカル境界を中心にこの字に拘る人も多い。

○「ドラゴン」のページより抜粋

本来は「竜」の字も「龍」の字も同じ意味だが、便宜上の分類として、西洋的な特徴を持つドラゴンを「西洋竜」あるいは常用漢字の「竜」で表し、東洋的な特徴を持つドラゴンを「東洋龍/東洋竜」あるいは人名用漢字の「龍」で表す傾向がある。

・「ニコニコ大百科」

○「ドラゴン」のページより抜粋

簡易な分類として、西洋的な特徴を持つドラゴンを「西洋竜（西洋龍）」或いは新字体の「竜」で表し、東洋的な特徴を持つドラゴンを「東洋竜（東洋龍）」或いは旧字体の「龍」で表すなどとする場合が多い。

これらは、学術的な調査に基づいた考察などではなく、あくまで SNS 等の特定の位相での「竜」と「龍」に対する印象の一部であるが、「龍」に東洋的、あるいは神聖なイメージ

を持つ漢字使用者が一定数存在するという事実を知ることができた。

3. 調査方法

大学共同利用機関法人人間文化研究機構が所有するデータ集『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下「書き言葉コーパス」)を用いて、2000年以降の「竜」と「龍」それぞれの使用実態を把握する。サンプルとなっている語の品詞について、分類が誤っていると考えられる場合は適宜こちらで修正して集計し、分類に疑問はあるが不明な語の場合は元のデータを尊重することとする。また、集計結果を示した表の数字はいずれも延べ語数である。また、「竜」、「龍」はともに想像上の生物を表す漢字であるため、本稿では竜にまつわる伝承やファンタジー小説等にも注目する。普通名詞のサンプルの中で竜そのものを指す場合、その竜がどのような存在かを確認し、それが漢字の使い分けに影響するか否かも調査する。外見的特徴によって区別するとき、図1のように細長い蛇のような体で中国にルーツも持つ竜を東洋的、図2のように翼の生えたトカゲのような竜を西洋的とここでは定義する⁽⁴⁾。



図1 龍岸寺本堂の竜の彫刻 出典：「浄土宗 龍岸寺」



図2 スロベニアの首都リュブリャナの「竜の橋(Zmajski most)」の彫刻 出典：「slomost」

4. 調査結果

4.1 2000年以降の各メディアにおける使用実態

書き言葉コーパスを用いて調査した、メディアごとの使用頻度と使用比率を表1に示す。

表1

	比率		用例数	
	龍	竜	龍	竜
新聞	27%	73%	6	16
広報誌	47%	53%	15	17
書籍	55%	45%	474	389
ネット	59%	41%	405	278
雑誌	80%	20%	39	10
会議録	100%	0%	6	0
教科書	100%	0%	5	0

一見して、用例数が多くなるほど、比率が拮抗してくることがわかる。これは笹原(1999)の調査結果にも見られた特徴である。そのため常用漢字表に採用されている新字体の「竜」が広く使われている一方で、「龍」も現在に至るまで安定して使われ続けていると言えるだろう。

新聞では「龍」の比率が低く、また人名や書名等の固有名詞に使われるのみだった。略字である「竜」のほうがより多く使用されており、紙面の読みやすさを向上させるというメディア特有の理由が伺える。関根(2016)は新聞社の人間の立場から次のように述べている。

新聞で扱いが問題になる異体字はほとんどが人名・地名などの固有名詞である。固有名詞は当人、当該自治体などの意向に従うべきであり、通用字体に統一するという理由で勝手に変えてはならないとする考え方もある。しかし、文字は社会全体で共有するものであり、公共性を持つ。そこで、「一般の社会生活において、現代の国語を書き表す場合の漢字使用の目安を示す」(常用漢字表)「一般の社会生活において、表外漢字を使用する場合の字体選択のよりどころ」(表外漢字字体表)という趣旨にもとづき、字体の統一に努めてきた。

両表とも、固有名詞を対象とするものではないというただし書きがある。しかし、同じ音訓・意味を持つ同一字種の漢字を、異なる複数の字体で書き分けるのは、情報伝達、意思疎通の障害となり、事務作業などの点からも負担が大きい。(pp.64-65)

また、同論文の付表「新聞用語懇談会アンケートから 字体の扱いに関し問題になったことのある漢字の例」(pp.66-67)の中には「龍(竜)」も見られる。このように、公共性という観点から「龍」ではなく「竜」が使用される事例があることがわかる。

会議録、教科書は「龍」100%、「竜」0%となったが、いずれも用例数が少なく、かつ固有名詞である人名においてのみ使われている。教科書については今回の調査では「龍」のみが見られたが、文部科学省の「義務教育諸学校教科用図書検定基準 別表」には次のような記述がある

(4)常用漢字の字体については、「常用漢字表」によること。ただし、教科書体活字を使用する場合には、「学年別漢字配当表」に示された漢字の字体を標準とし、その他の常用漢字については、これに準ずること。(「漢字」の項)

(4)人名のうち、通常、漢字で表記されるものについては、常用漢字の範囲内に限定しないでそのまま表記すること。ただし、児童又は生徒の発達段階からみて無理があると認められる場合には、仮名書きにすることができること。(「地名・人名」の項)

このため、人名以外の場合においては「竜」が使われるということを留意しておきたい。以下に、書き言葉コーパスで見られた各メディアにおける用例の一部を示す。

新聞

「竜」

・陽一が舞子の手を引っ張った。竜は、とてもゆっくりとした速度で少しずつ地面に近づいている。(柴田よしき(2001)「蛇」、『京都新聞』2001年9月22日付朝刊)サンプル ID: PN1j_00015

・理由はすぐに分かった。不気味な枝ぶりを誇る樹木が、たけり狂う竜か化け物に見えたからだ。(『毎日新聞』2002年4月21日付朝刊)サンプル ID: PN2b_00002

広報誌

「龍」

・岩肌には、昇降する龍の跡といわれる模様が見えます。(『広報遠野』2008年08号)サンプル ID: OP06_00002

・これまで、亀や龍を紹介しましたが、まだ大物が残っていました。(『市報かみのやま』2008年11号)サンプル ID: OP10_00001

書籍

「竜」

・劉邦の顔であった。〈あれは、竜の顔だ〉と、子分の盧綰たちが、言ってまわった。(谷沢永一(2001)『司馬遼太郎の贈りもの』PHP 研究所)サンプル ID: LBp9_00050

・竜だ。 その一頭の竜は翼を持たず、大地を四つ足で駆けてゆく。(花衣沙久羅(2004)『封印の竜剣——リアランの竜騎士と少年王』集英社)サンプル ID: LBt9_00222

・三方の戸板を開け放した夜空には天の川があたかも竜のごとく横たわっている。(高橋克彦(2001)『鬼九郎五結鬼灯』新潮社)サンプル ID: PB19_00328

・ときには赤い竜の目をして、じっとこんなにオツベルを見おろすようになってきた。(宮沢賢治(2005)『オツベルと象』岩崎書店)サンプル ID: PB59_00110

「龍」

・なんでも致命傷を与えた銃弾は入墨の龍の頭を貫通して体内に侵入したという。(ゲルハルト・ロート(2000)『ウィーンの内面への旅——死に憑かれた都』(須永恆雄訳)彩流社)サンプル ID: LBo9_00221

・龍は、帝位を呼び寄せると言われる神獣だ。(宮乃崎桜子(2005)『歳星天経——斎姫繚乱』講談社)サンプル ID: LBt9_00143

・また龍脈を強化する赤い宝玉を持った龍の置物もほしいですね。(小林祥晃(2001)『Dr.コパの「風水」開運インテリア事典——21世紀対応版』廣済堂出版)サンプル ID: PB11_00159

・その先は、二列の階段になって、その真ん中に龍の彫刻が施された部分がある。(井沢元彦(2002)『一千年の陰謀——平将門の呪縛』角川書店)サンプル ID: PB29_00753

ネット

「竜」

・そしてこの芝桜の植え込み 実は竜の形を模しているとのことですよ!!(「Yahoo!ブログ」2008年)サンプル ID: OY11_00339

・ただ、竜の試練をやるのならもっとレベルを上げないと無理ですね。(「Yahoo!知恵袋」2005年)サンプル ID: OC01_00137

・中国にある「竜門」という滝をのぼりきった魚は竜になると伝えられていました。(「Yahoo!ブログ」2008年)サンプル ID: OY03_06951

・♪これが日本の 祭りだあよお～～♪竜が煙を吐いたあ～～～！いいぞ、いいぞ！！(「Yahoo!ブログ」2008年)サンプル: OY11_02471

「龍」

・中川嘉兵衛が販売した天然氷には「天然氷」「函館氷」に龍が舞う図柄がデザインされていたという。(「Yahoo!知恵袋」2005年)サンプル: OC12_00657

・三つ巴の模様に龍が飛んでいる様子の絵柄です。これは綿入れ半纏です。(「Yahoo!ブログ」2008年)サンプル ID: OY15_08902

・やん、二体も龍があるなんて(*^^*)嬉しいよ～ ん、待てよ。龍って妖怪なのか？ ←今頃気付いた奴(^^);(「Yahoo!ブログ」2008年)サンプル ID: OY15_04141

・さらに、最近ずっと首回りを守ってくれてる水晶も見せびらかしところ！勾玉に龍の彫りもン入り。これも初代は、パッキリ割れちゃいました。あーあ。(「Yahoo!ブログ」2008年) サンプル ID: OY15_15864

雑誌

「竜」

・本当に竜の舌みたいで、うねうねと動き出しそう。(『アサヒカメラ』2001年8月号、朝日新聞社)

「龍」

・心と体に働きかけるヨガさまざまなポーズがあるヨガですが、写真は龍のポーズ。足が伸びているほうの腰や内臓に効きます。(『家庭画報』2001年1月号、世界文化社) サンプル: PM11_00204

・そのため、元の姿である龍形態へは戻れなくなっている。(『HOBBY JAPAN』2003年5月号、ホビージャパン) サンプル ID: PM31_00301

・祭りでは、十八メートルもの長さの龍が八千枚のうろこをきらめかせて境内を行き、人々の安寧を祈願する。(『AERA』2004年3月1日号、朝日新聞社) サンプル ID: PM41_00599

会議録

「竜」

無し

「龍」

・小泉龍司君。○小泉(龍)委員おはようございます。自由民主党の小泉龍司でございます。(「国会会議録」第154回国会、2002年) サンプル ID: OM61_00001

教科書

「竜」

無し

「龍」

・ ・龍の好きな野球チームはどこですか？・龍は何中学校の出身ですか？(石田雅近ほか(2006)『Hello there! Oral communication I』東京書籍株式会社) サンプル ID: OT43_00021

4.2 2000年以降の固有名詞の位相ごとの使用実態

次に、笹原(1999)の研究結果と比較するため、固有名詞について詳しく見ていく。集計す

ると表2のような結果になり⁽⁵⁾、地名や寺社名、店名の比率は先行研究から大きく変化していないが、人名については「龍」が増加している。

表2

	比率		用例数	
	龍	竜	龍	竜
地名	35%	65%	13	24
人名	63%	37%	397	232
寺社名	86%	14%	18	3
店名	90%	10%	27	3

店名や寺社名では「龍」が多く用いられている。店名では主に中華料理店やラーメン屋の名前に使われており、旧字体の「龍」が中国文化の影響を受けたものにみられるイメージを象徴する漢字として好まれているようである。寺社名に関しては、長らく正字として使われてきた「龍」が現代まで引き継がれてきた結果だと考えられる。

人名は先行研究では比率が拮抗しており、「竜」のほうがわずかに上回っていたが、今回の調査では「龍」の用例数が多くなっていた。姓と名のどちらに「竜」や「龍」が入っている場合にも集計している⁽⁶⁾が、ここでは特に名のほうに注目していく。

HAMA 監修『マンガでわかる！赤ちゃんの名付けはじめて BOOK』では、「竜」は以下のような願いやイメージを込めて使われると紹介されている。

たくましく、スケールの大きな人に。知的で勇敢、ときには運を引き込み味方につられる人にと願いを込めて(p.337)

神秘的・ロマンチック・メルヘンチック(p.259)

同様に「龍」は以下のような理由から用いられると紹介されている。

力強くスケールが大きい子に。目標に向かって努力する向上心がある人にと期待を込めて(p.366)

自分の意志・生きる力がある・丈夫な(p.260)

一本筋の通った・努力する・自分を磨く(p.268)

その他、両字体に共通して以下のような文言が使われている。

活力・素直で自由・たくましい(p.255)

みやびやか・落ち着いた・しなやか(p.259)

また、西村安珠『すてきな赤ちゃんの名付け事典』では「龍」について、次のように述べられている。

強くて縁起のいいイメージの名に

竜は四霊のひとつで、縁起の良い想像上の動物。いつまでも若々しくいられるように、昇龍のようなパワーと才能をもたらす。(p.86)

空想の世界でくり広げられる、わくわくするような大冒険や夢物語をイメージして。個性的で勇壮な印象をもたらす名前に。(p.458)

竜が中国で縁起の良い存在であることに触れながらの解説がなされていることが特徴的である。また、西村の著作は2014年のものだが、「竜」よりも「龍」のほうが人気で名づけに多く使われたことで取り上げられている。

このように人名を表記するという場合に、架空の生物の竜のイメージから、たくましさや東洋的というイメージが両字体に見出されていることがわかる。そのうえで「龍」のほうが使われやすい場合があるのは、旧字体であるというインパクトが名前の印象付けに一役買うなどのメリットを生み出すからだと考える。一方で、「竜」にも画数が少なく読み書きが容易であるという明確なメリットがあり、これらの特徴がどちらの字も人名に使われ続けている理由となっているのだろう。次項からは、伝承等に登場する竜の特徴に基づいた字体の使い分けの調査結果を示しているが、命名という場面においても東洋や、縁起の良い善性の存在という点は考慮されているといえるだろう。ただし、後述する竜の怪物のようなイメージなどは命名との関連は低いと考えられ、あくまで架空の生物の竜に対するイメージは名づけにある程度、良い面のみからの影響を及ぼしていると考えたほうがよいだろう。また、命名に関する書籍では姓名の画数の吉凶についての解説も掲載されており、より縁起が良い結果になるように「竜」と「龍」のいずれかを選択しているということも考えられる。

少し趣を異にするところでは、プロ野球球団の中日ドラゴンズを「竜」と表記するサンプルも複数見られ、これは一種の当て字的用法という風に捉えることができるだろう。

以下に、参考として書き言葉コーパスで見られた固有名詞の用例を示す。

「竜」を含む固有名詞

・竜田越奈良街道	・下谷竜泉	・陰竜坂	・千住竜田町	・竜沢	・竜ヶ峰	・竜爪山	
・竜南	・竜神橋	・竜海岸	・竜ヶ岳	・竜の口	・竜見町	・七竜峠	・竜田川
・梅竜園	・竜田沼	・竜心池	・隆の家栄竜	・真竜斎貞水	・竜枝	・竜見	・竜
・巖竜	・藤崎竜	・戦闘竜	・和田竜	・竜雷太	・竜真知子	・竜也	・竜二
・竜三	・竜一	・竜児	・九頭竜ちか	・横竜	・光竜寺ミニ	・寒川竜	・竜人

- ・長連竜 ・太田竜 ・湯川一竜 ・宇崎竜童 ・竜宝公 ・小川竜 ・破李拳竜
- ・壺竜 ・竜生 ・濱口竜 ・中村竜 ・山崎竜 ・竜小太郎 ・竜源寺 ・竜光寺
- ・竜雲メンタルクリニック ・竜庵 ・竜の子プロダクション・竜座 ・竜の爪萱
- ・竜のひげ ・竜椎 ・竜大

「龍」を含む固有名詞

- ・龍池山 ・龍ヶ岳 ・龍ヶ岳町 ・龍の口 ・五龍 ・龍川 ・龍地 ・正龍寺村
- ・神田伯龍 ・龍慧南 ・村上龍 ・五嶋龍 ・山口龍 ・五島龍 ・龍 ・朝青龍
- ・雄龍 ・小泉龍司 ・龍之介 ・森岡龍 ・龍前 ・無頼龍 ・龍寺 ・龍規
- ・富谷龍一 ・齋藤興龍 ・光龍 ・河端龍 ・大久保龍 ・龍川政次郎 ・平井龍
- ・龍緋比古 ・長連龍 ・龍馬王 ・龍温 ・松原龍 ・龍居由佳里 ・暗龍ももすけ
- ・太田龍 ・梅原龍 ・坂本龍一 ・道上龍 ・君龍 ・龍心 ・松本龍 ・小山内龍
- ・白石龍 ・法龍寺 ・龍護寺 ・全龍寺 ・龍穩寺 ・龍穩院 ・龍源寺 ・龍津寺
- ・昇竜堂 ・龍の湯 ・鐵龍 ・龍京 ・味龍 ・一龍 ・龍上海 ・藤龍 ・龍の子
- ・龍天門 ・龍工房 ・求龍堂 ・龍舌蘭 ・龍力 ・柳龍

4.3 竜の東西と使い分け

事前調査の際に見られた、竜の東西や善悪による使い分け意識についても、書き言葉コーパスのサンプル元の書籍等を読み判別できる範囲で調査を行った。まずは竜を外見で東西の2つに分け、東洋の竜、西洋の竜の両方を指している場合は双方に0.5件加算する形をとっている。その結果を表3に示す。

表3

	東洋	西洋
龍	65.5	8.5
竜	36	11

目を引くのは、「龍」で西洋の竜を表す用例数に比べ、東洋の竜を指している用例数が圧倒的に多いことである。

まず、「龍」で西洋竜を指しているサンプルは2つに分けることができ、1つはキリスト教における悪魔の象徴の竜、もう1つが株式会社カプコンのゲーム「モンスターハンター」シリーズに登場するモンスターである。前者は後ほど詳しく見ていくため、後者について言及すると、「モンスターハンター」シリーズでは「竜」と「龍」が明確に使い分けられてい

る。「竜」がゲーム内の世界で一般的な竜のモンスターに対して使われるのに対し、「龍」は天災に匹敵するほどの特異な力と非常に長い寿命を有する存在の総称として使われるというものである。これは「龍」の重厚で昔風の形が与えるイメージに影響された例だと考えられる。

次に「龍」で東洋竜を指したサンプルについてだが、前述したように用例数が多いことに加え、旧字体を用いることについて特に説明などがされていないことに気づいた。つまり、漢字使用者がごく自然に東洋の竜を表す際に「龍」を選択しているということになる。このようなことが起きる理由については、次に掲げる笹原(2006)の論が参考になった。

現に常用漢字であるものは、新字体の定着が著しいことは、大学生に対するなじみ、好みの調査にも現れているが(笹原宏之・横山詔一・エリック＝ロング(二〇〇三))、「竜」に対する「龍」、「蜃」に対する「蜃」のように、旧字体への思い入れが強いケースも個別に存在し、(略)また、タツタ揚げは「竜田揚げ」だけど、ウーロン茶は「烏龍茶」にしておこう、といった選択もなされる。これらは、社会的な習慣として個々人の接触頻度につながり、さらに個々人の使用するところとなっていくという循環を形成するのである。

この論文で例として挙げられているのは「竜田揚げ」や「烏龍茶」だが、これは架空の生物そのものを指す場合にも当てはまることではないだろうか。すなわち、「龍」という字体が生活の中で東洋風であるというイメージを帯び、各人の東洋の竜に対する旧字体の使用にも繋がっていくのである。その東洋風のイメージを与えるのは神社仏閣であったり中華料理店であったりするのだろう。

そして、「竜」で架空の生物を指しているサンプルについて、こちらも「龍」ほどの差ではないが東洋竜を指す場合が多いという結果になった。これについては、そもそも西洋竜を指すときにはドラゴンやワイバーンといった言葉を用いているのではないかと推測をした。似通った点があるためにドラゴンなどの架空の生物にも「竜」や「龍」の字が訳語として当てられるが、元々東アジア圏の伝承にある竜と西洋のドラゴンは異なる存在である。そのため「竜」で西洋竜を指した用例が少なくなるのではないかと考える。

例外的な書き言葉コーパス中のサンプルを挙げると、井沢元彦の『一千年の陰謀―平将門の呪縛』においては、東洋の竜に対して「竜」と「龍」の両方を使用が確認できた。もとは約1年間に渡って新聞で連載されていた作品であるため、間が空いたことで表記ゆれが生じたと考えることもできる。「竜」は物語中盤の7章、「龍」は終盤の14章でそれぞれ見られる。しかし、単行本化する際に加筆訂正を行っているため意図的なものだとも考えられるだろう。使い分けの根拠として考えられるのは、物語の舞台の違いである。「竜」は日本が、「龍」は瞑想の世界の中国風の宮殿が舞台となっているときの表記であるとすれば、この作品では「龍」のほうにより中国のイメージが強く表れているということになるだろう。

以下に、書き言葉コーパスのサンプルや底本等を読み東西を区別できた用例の一部を示す。

「竜」 + 東洋

・とりわけ目をひいて立派だったのは、中国風の竜の飾りのついた大きなビッソーネと、皆の意見が一致。(角井典子(2000)『ヴェネツィア的生活』マガジンハウス)サンプル ID: LBo3_00050

・細長い頸部に力と権威の象徴である竜が巻きついており、竜の眼には画竜点睛を欠くことなく鉄釉が施されているのが珍しい。(山形県文化財保護協会編(2002)『山形県の文化財』山形県教育委員会)サンプル ID: PB27_00126

・中国の故事にこんなお話があります。常山という山に、竜がいました。その竜は、前に進むことしかできませんでした。(コエン・エルカ(2004)『生き物として、忘れてはいけないこと——次代へ贈るメッセージ』サンマーク出版)サンプル: LBs1_00029

「竜」 + 西洋

・イザヤ書に、神がレビヤタンと海にいる竜を殺すことが約束されている(イザヤ書二十七章1節)。(ピーター・ローリー(2005)『2009年、人類はこう終わる——聖書に刻印された終末のタイムスケジュール』(大沢満里子訳)徳間書店)サンプル ID: LBt1_00012

・アルミーダ Armida は最初に「口から炎と煙を吹く二頭の巨大な竜が引く戦車に乗って空中に」現れる。(ウィントン・ディーン(2005)『ヘンデルオペラ・セリアの世界』(藤江効子訳)春秋社)サンプル ID: PB57_00038

「龍」 + 東洋

・十境内の寸景4枚1本堂の軒下を飾る龍の彫り物と「昌福寺」の扁額。(「Yahoo!ブログ」2008年)サンプル ID: OY03_10943

・臺股(かえるまた)は、三態の龍の彫刻が施され、また、木鼻(きばな)は獅子。(「Yahoo!ブログ」2008年)サンプル ID: OY13_02902

・天地の気のエネルギーそのものの化身である龍は、人に当てはめると皇帝に相当する。(藤巻一保(2001)『陰陽魔界伝——書下し超伝奇巨篇』徳間書店)サンプル ID: PB19_00103

・忠平の視線の先を見やれば、床の上に、龍の形と虎の形に切り抜かれた二片の紙が落ちていた。(夢枕獏(2002)『陰陽師』文藝春秋)サンプル: PB29_00022

「龍」 + 西洋

・なお、この龍は、大天使ミカエルとその使いによって地に落とされる。(アラン・カバントゥ(2001)『冒涇の歴史——言葉のタブーに見る近代ヨーロッパ』(平野隆文訳)白泉社)サ

ンプル ID: PB12_00249

・ちょっと面倒になってきた。早く鋼の尖爪手に入れたいな。(「Yahoo!ブログ」2008年)

サンプル: OY14_39969

4.4 竜の善悪と使い分け

続いてサンプルとして取り上げられた物語や伝承中の竜が、吉兆のように扱われているか、あるいは人々に害をなす怪物のように表現されているかで区別し集計を行った。

表 4

	善	悪
龍	37	32
竜	0	25

結果は表4のようになり、「竜」は主に悪役の竜を表すために用いられるようである。旧約聖書で悪魔を象徴するものとして描写された竜や、西洋の民話の中で怪物として英雄に退治された竜に対しての用例などが確認できた。その他にも書き言葉コーパスにおいては、J. R. R. トールキンの『指輪物語』の邪悪なドラゴンを指す場合など、西洋竜が悪役を担い尚且つ訳本において「竜」の字があてられる用例は少なくないようである。

一説によると、西洋の竜が悪、東洋の竜が善の存在として人々に受け入れられてきたという。三津田信三編『妖怪/夜行巡り』には以下のような記述が見られる。

ヨーロッパにおける龍は「人間の心の中に潜んでいる邪悪で破壊的な力の象徴」であり、神や天使の対極の存在として認識されている。

神と同じくらいの力を持つ、邪悪な存在。それはときには正しきものをも滅ぼすパワーを秘めていて、それゆえ人々にとって龍は恐ろしい存在だった。

東洋においても、こうした龍の強大なパワーは古くから人々に認知されていたようだが、善悪の二面性という性質について見ると、西洋よりはるかに「好ましい存在」として受け入れられていたようだ。(p.163)

たしかに、榊芳生『日本のグラン・シェフ』ではある中華料理店の店名が縁起物である「龍」に由来するという記述があり、小林祥晃によるいくつかの風水に関する書籍で「龍」の置物を飾って運気を高めるという用例などが書き言葉コーパス中で見られ、前項で見た「龍」と東洋のイメージの結びつきを考えると、東洋竜が善の存在であるということはある程度の納得がいく話である。

では、西洋≡「竜」≡悪や、東洋≡「龍」≡善という図式が成り立つかと言うとそう単純ではなく、前述した通りキリスト教における悪魔の象徴の竜に対して「龍」を使うという例もあり、この項の調査結果を見ても悪い存在の竜には「竜」と「龍」のいずれもが使用されている。先に取り上げた『一千年の陰謀—平将門の呪縛』にて主人公と敵対する不死の竜など、東洋風で「龍」と表記もされるが物語中では悪役となっているサンプルは複数見られる。このような用例では「龍」に、重厚な字形から恐ろしく強大であるというイメージが結びついていると言えるだろう。あるいは長い時を生きてきた存在であるという点から、旧字体である「龍」に古風、伝統的という印象を持っているために用いたとも考えられる。これらを踏まえると、必ずしも東洋の竜が善良な存在として描かれているとは限らず、そのため「竜」と「龍」の双方が悪役の竜に対して使われていると言えるだろう。

少し本筋からは逸れるが、サンプルの中には花衣沙久羅『封印の竜剣—リアランの竜騎士と少年王』や「モンスターハンター」シリーズなど、竜は善でも悪でもなくただ強大な存在であるというスタンスのものが「竜」と「龍」のいずれにも散見された。この項の集計した用例数が全体的に少なくなっているのにはこうした理由がある。

以下に、書き言葉コーパスのサンプルや底本等を読み善悪を区別できた用例の一部を示す。

「竜」 + 善

無し

「竜」 + 悪

- ・この時点では、ビルボは指輪の支配に苦しむのではなく、竜の害を受け黄金病にかかっている。(河出書房新社編集部編(2002)『指輪物語完全ガイド—J.R.R.トールキンと赤表紙本の世界』河出書房新社)サンプル ID: PB29_00211
- ・これが、弟たちだ—おぼえてない? ぼくたちの仕事は、悪い竜と戦うことなんだ。(P.L.トラヴァース(2003)『公園のメアリー・ポピンズ』(林容吉訳)岩波書店)サンプル ID: LBr9_00008

「龍」 + 善

- ・「龍」は瑞兆だよ、と幼い頃いつも母に聞かされたものだ。(常書鴻(2005)『敦煌の守護神—常書鴻自伝』(吉田富夫ほか訳)日本放送出版協会)サンプル ID: LBt2_00004
- ・店名の「龍の子」は、中国の縁起物の“龍”に小さいという意味を持つ“子”をつけた(榊芳生(2004)『日本のグラン・シェフ—皿を彩る 55 人のアーティスト』オータパブリケーションズ)サンプル ID: PB46_00019

「龍」 + 悪

・龍が正面から隆之に、一気に噛みつこうと襲いかかってきた。(井沢元彦(2002)『一千年の陰謀——平将門の呪縛』角川書店) サンプル ID: PB29_00753

4.5 竜の实在・非实在と使い分け

最後に、各サンプル中で竜が实在する生物として扱われているかという区別をし、その集計結果を表5に示した。

表5

	架空	实在
龍	104	102
竜	60	114

「竜」が架空の存在に対して使われることがやや少ないというほかは、用例数にあまり大きな差は見られなかった。書き言葉コーパスのサンプルには高橋弥七郎『灼眼のシャナ』や、アン・マキャフレイ『竜とイルカたち』といったファンタジー作品も含まれており、そういったジャンルで竜についての描写がある場合は、竜が実際に作中に登場していることがほとんどであるため、实在の用例数が多くなるのも自然なことではある。

ホルヘ・ルイス・ボルヘス『幻獣辞典 新版』(柳瀬尚紀訳)には竜について以下のような記述がある。

西洋の竜はせいぜい恐怖をもたらすだけで、最悪の場合にはおかしな姿になる。ところが中国神話の竜は神々しく、獅子でもある天使のごときのものである。(p.61)

竜の存在は信じられてきた。十六世紀中葉、科学性をもった著作であるコンラート・ゲスナーの『動物誌』にも竜が載っている。(p.252)

またしても東西の二項対立が絡むが、ここでは实在 \equiv 西洋の竜 \equiv 悪と非实在 \equiv 東洋の竜 \equiv 善という構図が見られる。そのために、「龍」と比べて東洋的でない「竜」が实在の生物を指す場合に用いられることが多いと考えることもできるだろう。聖俗のうち俗の側にある西洋の竜に俗字である「竜」をあてているということもできるだろうか。しかしながら、竜の東西や善悪ほどには、字体と各項目の用例数に相関が見られず、竜が实在のものとして扱われているか否かは字体の選択にあまり影響を及ぼさないとするのが適当だと考える。

以下に、書き言葉コーパスのサンプルや底本等を読み、竜を实在のものとしているか否かを区別できた用例の一部を示す。

「竜」＋架空

・架空の生物の竜、この世のものでない幽霊、当時は見るこののできなかった虎…。(『ミセス』2003年10月号、文化出版局)サンプルID: PM31_01337

「竜」＋実在

・個体差はあるものの、千年の寿命がある竜は、百年くらいで成体になる。(津守時生(2001)『やさしい竜の殺し方』角川書店)サンプルID: LBp9_00039

・かつてない大量の竜の侵入に、小国カグウェルは大揺れに揺れているはずなのだ。(荻原規子(2002)『西の善き魔女』(3)中央公論新社)サンプルID: PB29_00069

「龍」＋架空

・龍というのは架空の動物ですが、非常に卓越した存在の象徴です。(有馬頼底(2003)『よくわかる茶席の禅語』主婦の友社)サンプルID: PB31_00117

・ツチノコ。麒麟。龍。等の架空の生き物ノ事が乗ってるHP教えてください。(「Yahoo!知恵袋」2005年)サンプルID: OC12_03047

「龍」＋実在

・わたくしは昔、水に落ちて、龍に召し使われる身となりました。(ラフカディオ・ハーン(2003)『雪女;夏の日の夢』(協明子訳)岩波書店)サンプルID: LBr9_00116

・ふたりの知る龍とは、巨大で力強く、しかし何よりも慈愛あふれる心優しき生き物だった。(榎木洋子(2003)『緑のアルダー—千年の隠者』集英社)サンプルID: PB39_00040

5. おわりに

以上に示したように、常用漢字表に採用されている「竜」が広く使われている一方で、とその表外字体である「龍」も 2000 年以降においても根強く使用され続けている。また、創作文学や伝承における使用状況にも着目して調査した結果、わかったことを以下に示す。

- 1 「龍」には東洋的、中国的なイメージが強く結びついて使われている。
- 2 視認性や公共性という観点から「竜」が使われる場合も見られる。
- 3 用例によっては東西等いくつかの対立軸による字体の使い分けがなされるが、使い分けに常にすべての軸が反映されるわけではない

笹原(1999)が挙げた理由に加え、1 の理由のために「竜」ではなく「龍」が選択される場面が様々にあるとすることができるだろう。

2 についての例を挙げると、高橋克彦の『鬼九郎五結鬼灯』では、書き言葉コーパスにもサンプルとして採集されている出版年が新しいものでは「竜」、そうでない出版年の古いものでは「龍」という表記の変化が見られた。これは旧字体を用いることに特段の事情があるわけではなく、視認性のためには字体にこだわることはないというわかりやすい事例である。

そのため、字面の重厚さや東洋風のイメージから「龍」が使われることも多々あるが、常用漢字表に採用されており、読みやすさの点で優位性を持つ「竜」が淘汰されるということも無く、両字体はこれからも共存していくものと考ええる。

6. 参考文献

書籍・論文

- 青木逸平(平は旧字体) (2018) 『[旧字源]—旧漢字でわかる漢字のなりたち』 瀬谷出版
- 氏原基余司(2010) 「改訂常用漢字表の字体」、『日本語学』 (29(10))pp.30-44 明治書院
- 円満字二郎(2007) 『昭和を騒がせた漢字たち—当用漢字の事件簿』 吉川弘文館
- 円満字二郎(2012) 『漢字ときあかし辞典』 研究社
- 円満字二郎(2023) 『漢字の動物苑—鳥・虫・けものと季節のうつろい』 岩波書店
- 小川環樹・西田太一郎・赤塚忠編(1969) 『新字源』 角川書店
- 尾崎雄二郎・都留春雄・西岡弘・山田勝美・山田俊雄編(1992) 『大字源』 角川書店
- 小和田顯・遠藤哲夫・伊東倫厚・宇野茂彦・大島晃編(2014) 『漢字典 第三版』 旺文社
- 菊地恵太(2022) 『日本略字体史考』 (日本語学会論文賞叢書 2) 武蔵野書院
- 笹原宏之(1999) 「「龍」「竜」にみる字体の併用の実態とその原因：歴史・メディア・用法・意識・行動の各面から」、『国語学研究と資料』 (23)pp.1-12 国語学研究と資料の会
- 笹原宏之(2006) 「「常用漢字表」と日常生活の漢字」、『日本語学』 (25(11))pp.115-125 明治書院
- 笹原宏之・横山詔一・ロング、エリク(2003) 『現代日本の異体字—漢字環境学序説』 (国立国語研究所プロジェクト選書 2)三省堂
- 関根健一(2016) 「印刷字体は一字種—字体—新聞社の立場から」、『日本語学』 (35(12))pp.58-68 明治書院
- 大学共同利用機関法人人間文化研究機構集 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』
- 大学共同利用機関法人人間文化研究機構集 『昭和・平成書き言葉コーパス』
- 西村安珠(2014) 『すてきな赤ちゃんの名付け事典』 成美堂出版
- HAMA 監修(2023) 『マンガでわかる！ 赤ちゃんの名付けはじめて BOOK』 KADOKAWA
- ボルヘス、ホルヘ・ルイス(2013) 『幻獣辞典 新版』 (柳瀬尚紀訳) 晶文社
- 三津田信三編(2001) 『妖怪/夜行巡り』 (日本怪奇幻想紀行 5) 角川書店
- 諸橋轍次(1959) 『大漢和辞典』 (12) 大修館書店

ウェブページ

- ドワンゴ「ニコニコ大百科」 <<https://dic.nicovideo.jp/>>(2023年10月16日最終閲覧)
- ピクシブ百科事典製作委員会「ピクシブ百科事典」 <<https://dic.pixiv.net/>>(2023年10月16日最終閲覧)
- yuki「slomost」 <<https://slomost.com/>>(2024年1月11日最終閲覧)
- 「浄土宗 龍岸寺」 <<https://ryuganji.jp/>>(2024年1月18日最終閲覧)
- 「文部科学省ホームページ」 <<https://www.mext.go.jp/>>(2024年1月24日最終閲覧)

脚注

- (1) 常用漢字表内字種の旧字体の使用頻度についての調査を、大学共同利用機関法人人間文化研究機構のデータ集『昭和・平成書き言葉コーパス』を用いて行った。結果は後付する資料を参照のこと。
- (2) 選好とも。人がある字体を書くことに影響する要因のこと。
- (3) 親近度とも。人が生活の中である字体と接触し読むことに関係する要因のこと。
- (4) 細分化すれば伝説あるいはファンタジー作品群の竜やドラゴンは様々な姿形を持つが、本稿は字種としての「竜」について研究するため、ここでは細かく区別することはしない。
- (5) 中国語の人名など日本語以外の用例の場合は、用例数に含めていない。参考として以下にそれらの用例を示す。
「竜」：二竜山、竜山区、崔竜雲、竜川駅
「龍」：龍虬荘、相龍、柳成龍、崔龍源、廖錫龍、公孫龍、鄧三龍、科龍
- (6) ペンネームなど、姓でも字体の選択に漢字使用者の意識が関わっている用例があるため。また、歴史上の人物の姓名も含めたのは、同一人物であっても字体の表記にゆれがあり同じく現代の漢字使用者の意識が関わっていると考えられたためである。

資料 常用漢字表内字種の旧字体の使用頻度

	1933	1941	1949	1957	1965	1973	1981	1989	1997	2005	2013
亞	17	24	1	4		1					
惡	184	130	86	89							
壓	10	10	1								
圍	20	18	3	3							
醫	95	44	9	11							
爲	1047	715	43	55				1		2	1
壹	17	5	5	1				1		1	
逸											
隱	22	11	6	3							
榮	62	39	28	16	1			1	1	3	
營	17	14	2	2							
衛	14	18	5	9	3			3		3	
驛	216	200	55	100							
謁											
圓	2443	978	473	491	1						
鹽	60	64	11	18							
緣	8	10	2								
艷	2	6	1								
應	33	45	11	9		1					
歐	7	21	1	1							
毆	5										
櫻	94	168	35	25				5	1	1	5
奧	447	311	181	152							
橫	28	32									
溫	7	3									
穩	5		4	1							
假	109	93	18	18							
價	73	32	13	8							
禍											
畫	149	259	196	39							
會	2479	2048	603	710	1			2			1
悔											
海	19	40	35								
繪	209	524	104	85		1				1	

資料 常用漢字表内字種の旧字体の使用頻度

	1933	1941	1949	1957	1965	1973	1981	1989	1997	2005	2013
壞	13	8	3	1						1	
懷	70	26	18	10							
慨											
概		1									
擴	8	13	1	1							
殼	27	24	5	5							
覺	22	18	9	4		1		1			
學	1029	620	183	117		8	1		2		
嶽	21	2	1	15							
樂	176	136	50	33		3					7
喝											
渴											
褐											
罐	7	8	8	4	3	34	6	3	3	2	
卷	311	149	96	54		1					
陷	114	112	35	16							
勸	12	10	1	4							
寬			7	2							
漢											
關	93	71	5	30	2						
歡	4	12	4								
觀	373	341	176	80		4					
氣	1880	1247	683	872		4				1	2
祈	1	2									
既											
歸	28	27	11	5		2					
龜	33	10	6	19				1			
器											
偽	40	17	5	6							
戲	6	5	3								
犧				1							
舊	283	264	90	75						1	1
據	8	10	3	2							
學	49	29	4	6							

資料 常用漢字表内字種の旧字体の使用頻度

	1933	1941	1949	1957	1965	1973	1981	1989	1997	2005	2013
虚	9	5									
峽	1	7		3							
挾	7	2	1	2	3	2	2				
狹	22	25	9	9							
郷											
響	2	3									
曉	63	46	12	6							
勤	3	1									
謹											
區	197	215	36	46							
驅	10	17	2	1							
勳	8	7	1	1							
薰	3										
徑	9	14	5	3							
莖	15	18	2	16							
惠	26	19	7	4	1			1		1	2
掲											
溪	16	12	10	2							
經	249	213	65	112			1	1			
螢	18	4	4		3	2	6	31	2		
輕	42	108	13	18					1		
繼	24	15	1	3							
鷄	52	58	11	66						1	
藝	142	70	31	61	1	2	1	5	2		4
擊	12	25									
缺	16	6	1	1							
研											
縣	251	341	49	130					2		
儉	1	1									
劍	39	43	30	8		1					
險	6	10	1								
圈	29	465	25	62					1		
檢	11	7	5								
獻	13	8	1	2				1			

資料 常用漢字表内字種の旧字体の使用頻度

	1933	1941	1949	1957	1965	1973	1981	1989	1997	2005	2013
權	592	414	153	152					1		
顯	13	19	1	3				2		1	1
驗	13	6	3	4							
嚴	32	34	8	6						3	
廣	53	84	23	23	1	1		4	2	3	4
效	37	23	1	1							
恆	1				4				1		
黃											
鑛	15	44	2	1							
號	484	431	113	185						2	2
國	3537	2983	1215	1446				6	2	3	14
黑	112	23	41								
穀											
碎	7	7									
濟	38	18	6	8		1				2	2
齋	22	30	5	9	1			2	1		
劑	49	20	9	13							
殺											
雜	21	31	14	6		1					
參	32	21	15	7		1				1	
棧	1	3	1	2	1	1	1				
蠶	16	23	1	13							
慘	18	9	3	1		1					
贊	1	1									
殘	25	27	5	4		2					
絲	120	46	6	32		2		1			
社											
視	24	29	4								
齒	173	71	55	79							
兒	179	120	34	41	1			1			
辭	40	27	9	5		1					
濕	2	12	2	2							
實	1282	950	373	260	8	2		4	4	4	11
寫	10	12	3	3							

資料 常用漢字表内字種の旧字体の使用頻度

	1933	1941	1949	1957	1965	1973	1981	1989	1997	2005	2013
社	10	14	1								
者	201	257	79								
煮											
釋	8	10	3	4		1		1			
壽	50	8	5	3	3			2	2	7	8
收	24	15	31	2							
臭											
從	99	33	4	13							
澁	14	4		6						1	
獸	20	15	7	1							
縱	35	36	6	5							
祝		1									
肅	6	3	5					1			
處	804	322	60	38				3		2	1
暑	4	1									
署	21	6									
緒	3										
諸	44	55	49								
敍			1	2							
將	28	33	10	5				1	1		
祥											
稱	23	24	4	2							
涉											
燒	59	20	15	3							
證	19	22	15	7			1	1			2
獎	2		1	1							
條	476	153	103	43		3	1	8		1	3
狀	18	15	4								
乘	35	26	12	16		3		1			
淨	12	15	2	3							
剩	7	9	1	1							
疊	233	205	70	93							
繩	82	30	10	10	27	17	7				
壤		4									

資料 常用漢字表内字種の旧字体の使用頻度

	1933	1941	1949	1957	1965	1973	1981	1989	1997	2005	2013
嬢	132	34	27	15							
讓	19	5	6	2				1			
釀	3	6		1							
觸	15	9	1	2							
囑	2										
神											
眞	610	656	276	151				11	3	10	5
寢	306	155	94	124							
愼	2	6	2								2
盡	10	16	3	1		1		2			
圖	88	115	60	11							
粹	30	16	8	7							
醉	39	15	2	11						2	
穗	32	46	1	36	2				1	1	1
隨	16	15	3	2		1					
髓	5	5	4	1							
樞	2	2									
數	1103	981	407	440		1					1
瀨	3	1	1								
聲	1351	704	566	658				5		3	2
齊	20	23	5	5				1			
靜	70	32	8	9				1			1
竊	6	3	1								
攝	11	12	3	4							
節		8	8								
專	23	10	1								
淺	24	21	4	15							
戰	462	640	123	51				8			
踐		4	1								
錢	857	302	58	71		1		10			
潛	8	5									
織	1	2									
禪	6	25	29	16				6	1		
祖	1										

資料 常用漢字表内字種の旧字体の使用頻度

	1933	1941	1949	1957	1965	1973	1981	1989	1997	2005	2013
雙	4	6	2	3							
壯	16	5	2	2							2
爭	42	22	5	10							
莊	18	26	5	12	2					2	1
搜	4	2									
插	16	8	1	2	1						
巢		5									
會	7	11	1			2	12			4	4
瘦	1										
裝	17	11	7	3				1			
僧		3									
層		1									
總	442	411	145	80	1						
騷	11	2	2								
增	51	43									
憎											
藏	179	64	17	25	2			3			2
贈	1	4									
臈	6	3	2								
卽		1									
屬	18	12	9	3							
續	25	12	7	2	1	1					1
墮	3	6	1								
對	296	265	72	90		1					
體	411	407	121	230	1	1		1	2	3	1
帶	143	74	28	38							
滯	11	11	2	3		1				1	
臺	301	226	55	83	1			2			1
瀧	34	18	11	17			7	3	32	3	1
擇	4	1	1	2							
澤	104	31	6	22	2		1		2	1	7
擔	9	18	3								
單	23	15	4	2			1				
膽	19	13	3	7		1					1

資料 常用漢字表内字種の旧字体の使用頻度

	1933	1941	1949	1957	1965	1973	1981	1989	1997	2005	2013
嘆											
團	313	266	131	77		7	2	12	2	3	
斷	22	15	8	4							
彈	83	76	25	18						1	
遲	9	9	3	3							
癡	5								1		1
蟲	112	83	18	26	2	2					1
晝	89	80	26	55							2
鑄	2	6	1	1							
著	13	14									
廳	64	53	21	51							
徵											
聽	19	10	3								
懲											
救		1									
鎮	6	27	3	4							
塚					3	7	23	7			
遞											
鐵	200	195	30	38	1					2	
點	1554	1381	733	723				1			
轉	65	75	5	12							
傳	133	97	43	35	1	4	1		1	10	6
都	14	5									
燈	55	35	14	32	10	10	10	8	6	2	1
當	199	114	49	48	2	2		2			1
黨	1579	443	1743	1241			1				
盜	14	8	9	4							
稻	20	67	7	36							
鬪											
德	7	1									
獨	77	282	22	11							
讀	49	14	9	8							
突		2									
屆	22	33	4	1							

資料 常用漢字表内字種の旧字体の使用頻度

	1933	1941	1949	1957	1965	1973	1981	1989	1997	2005	2013
難	3										
貳	8	3	11	1							
惱	4	1									
腦	52	17	28	16							
霸										1	
拜	15	16	4	9							
廢	30	23	6	2							
賣	74	17	9	1				1	1		2
梅											
麥	37	87	6	56							2
發	169	222	27	19					1	1	
髮	147	85	61	61							
拔	34	17	7	6							
繁											
晚											
蠻	2	2		1							
卑											
祕	17	4	4	4							
碑											
濱	72	82	2	17			2	2	1		3
賓											
頻											
敏											
瓶											
侮											
福											
拂	37	19	15	7							
佛	128	145	61	98		2			2	1	2
併											
竝	175	75	7	1	1	3	2	1	1	1	
摒											
餅											
邊	326	183	73	71							1
變	224	126	96	87				2			

資料 常用漢字表内字種の旧字体の使用頻度

	1933	1941	1949	1957	1965	1973	1981	1989	1997	2005	2013
辨	39	12	4	3		2	4	1		2	2
瓣	6	7	6	3	1	1					
辯	29	16	4	13							
勉											
歩		1	9								
寶	17	26	14	10						1	
豐	55	50	11	12	2					2	
褒											
墨											
翻	9	1	1	1	1			2			
每	15	14	7								
萬	2035	1551	477	458	5		4	10	7	32	8
滿	73	82	14	14					2	1	
免	1	2									
麵	5	2		1	4	3	2	3	5	11	24
默	12	5	3	1							
彌	100	31	5	4	5		4	3	3	1	
譯	900	386	56	63							
藥	140	94	38	44							
與	26	25	13	34			1	1		1	1
豫	16	14	4	2						2	
餘	365	275	46	75						1	
譽	6	1		3							
搖	12	4	2	4							
樣	1772	773	145	401		1		1			
謠	12	7	1	7							
來	5669	3753	1692	1762		5		6		2	1
賴	3	2									
亂	49	36	7	6							
覽	14	8	5	2							
欄	1										
龍	21	64	31	27	8	23	19	49	35	89	35
隆				1							
虜											

資料 常用漢字表内字種の旧字体の使用頻度

	1933	1941	1949	1957	1965	1973	1981	1989	1997	2005	2013
兩	574	306	76	103		5					
獵	4	4	1								
綠	11	6									
淚	3	2									
壘	32	29	5								
類											
禮	116	79	28	34		2	2				3
勵	19	17	2					3			
戾											
靈	39	27	11	14							
齡	18	25	11	8							
曆											
歷		4									
戀	142	52	38	58				1			
練	16	6									
鍊	1	12									
爐	51	38	1	9							
勞	45	23	14	35							
郎	35	35	5								
朗											
廊											
樓	81	33	11	10					4	4	
錄	4	10	1								
灣	42	45	16	9							